

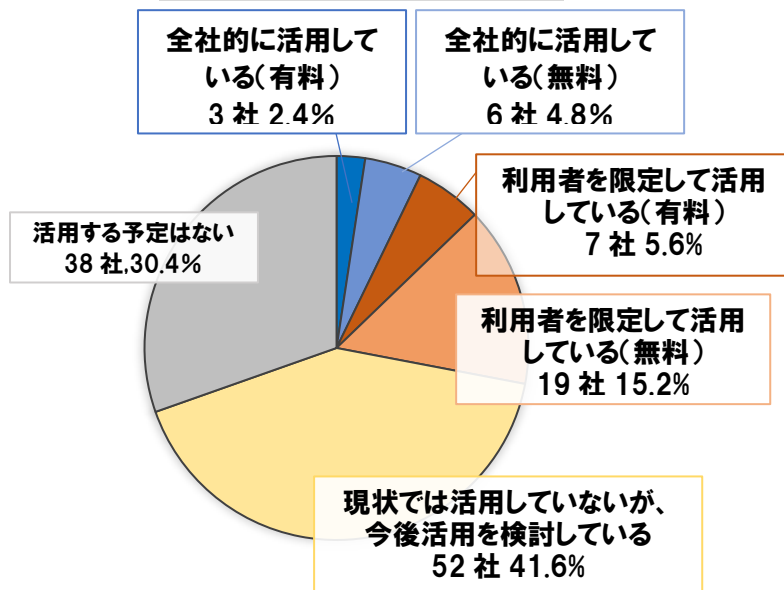
生成 AI 活用状況に関する調査

近年、生成 AI は急速に発展しています。少子化や労働者人口の減少が進む中、労働生産性の向上を図るため、生成 AI の活用に目を向ける事業者が増加しています。

本調査は、生成 AI の業務活用状況や課題を把握することを目的として実施いたしました。【2026年1月、回答125社】

※生成 AI とは、ユーザーから入力された情報に応じて、テキスト・画像・音楽・映像などのコンテンツを生成することができる人工知能（AI）。代表的なものに OpenAI 社の ChatGPT や Google の Gemini などがあります。

■ 生成 AI の業務への活用状況



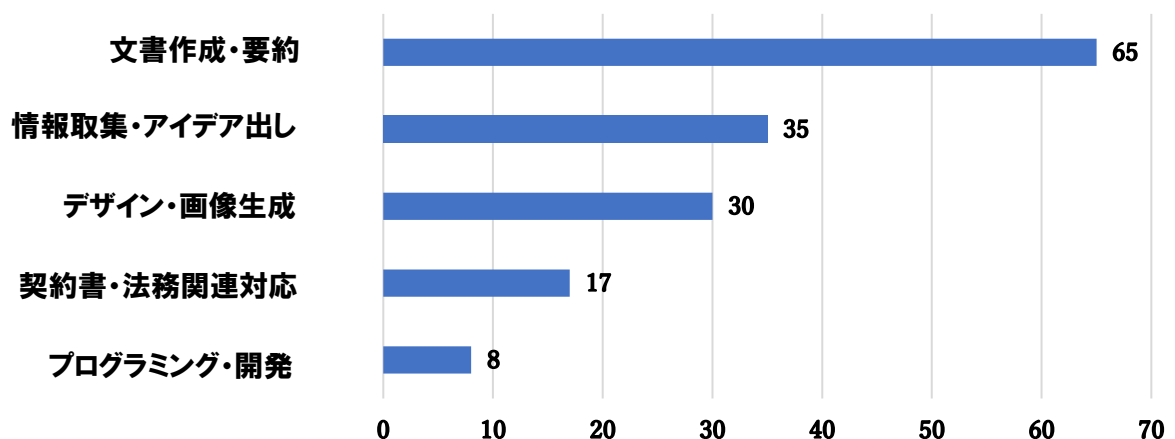
生成 AI の業務への活用状況は「全社的に活用している」が計9社（7.2%）となり、そのうち有料版が3社（2.4%）、無料版が6社（4.8%）となっています。

「利用者を限定して活用している」が計26社（20.8%）となり、そのうち有料版が7社（5.6%）、無料版が19社（15.2%）となっています。

また、「現状では活用していないが、今後活用を検討している」が52社（41.6%）、「活用する予定はない」が38社（30.4%）となっています。

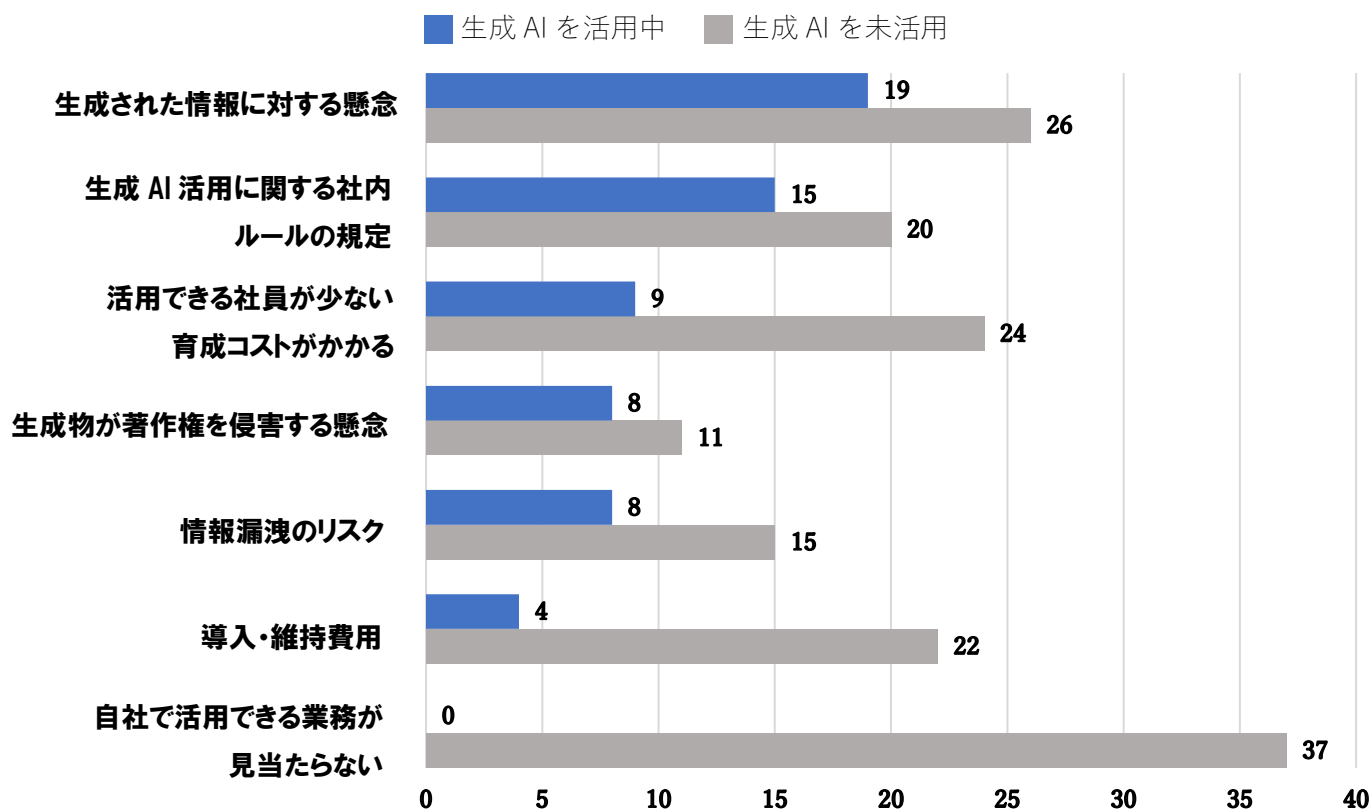
活用している企業は約3割、検討を含めると約7割となり、生成 AI に対して高い関心があることがうかがえます。

■ 活用している業務について（複数回答可）



生成 AI を活用（検討）している業務では、「文書作成・要約」が65件と最も多く、次いで「情報収集・アイデア出し」が35件、「デザイン・画像生成」が30件、「契約書・法務関連対応」が17件、「プログラミング・開発」が8件となっており、資料作成や情報収集などの業務に生成 AI を積極的に活用されていることがうかがえます。

■ 生成 AI 活用の課題（複数回答可）



生成 AI を活用していく上での課題では、活用している企業では、「生成された情報に対する懸念」（19件）や「社内ルールの規定の必要性」（15件）が上位となっています。

一方、生成 AI をまだ活用していない企業では、「活用できる業務が見当たらない」（37件）、「生成された情報に対する懸念」（26件）、他にも「活用できる社員が少ない、育成コストがかかる」（24件）や「導入・維持費用」（22件）などの課題が挙げられています。

※生成 AI を活用中：生成 AI の活用状況について「全体的に活用」「利用者を限定して活用」と回答した企業

※生成 AI を未活用：生成 AI の活用状況について「現状では活用していないが、今後活用を検討」「活用する予定はない」と回答した企業

生成 AI に関する支援策についての意見等

- 生成 AI に関する知識補完の場を増やしてほしい。
- AI セミナーなどの開催。
- 活用事例など情報提供。
- AI の能力を引き出す能力が問われている。
- 他社も AI を使うことで逆に差別化がしにくくなる。